

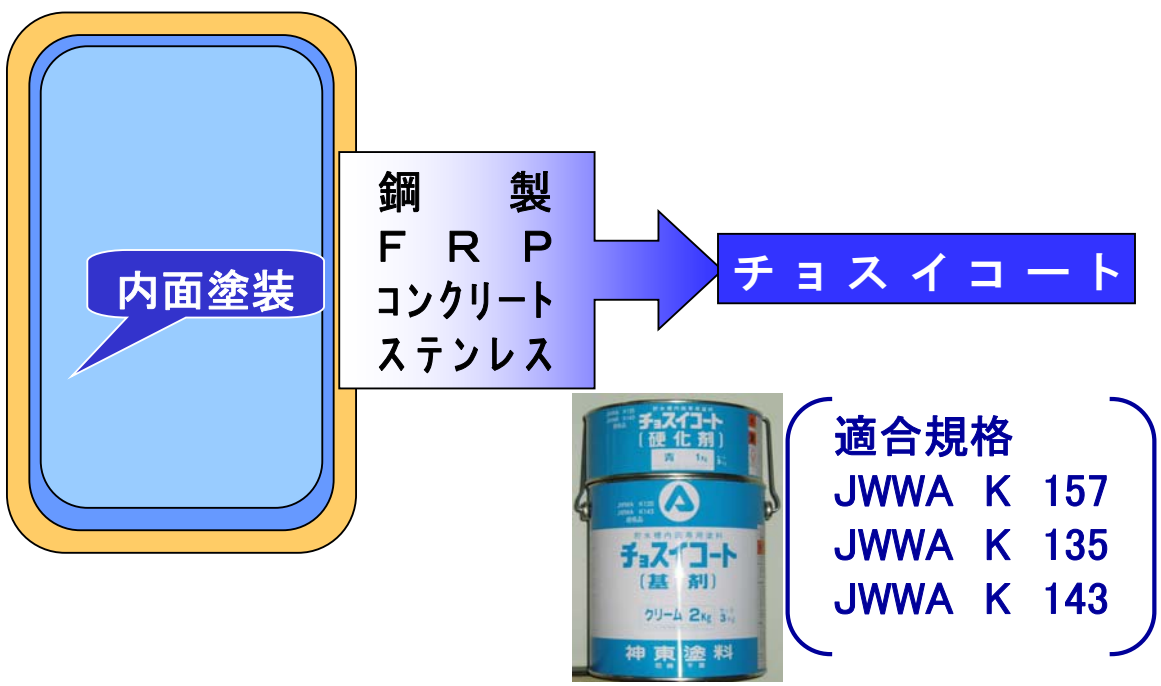
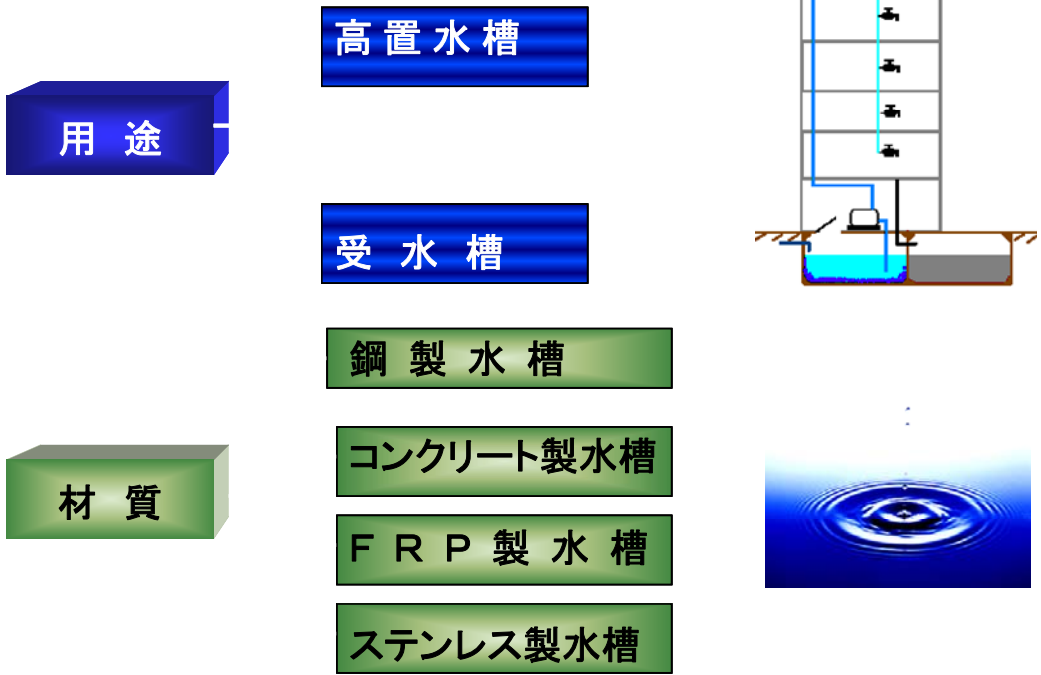
チヨスイコート塗装の手引き



神東塗料株式会社

1. チョスイコートを塗装する貯水槽

チョスイコートは飲料水用の貯水槽に塗装できる無溶剤形塗料です。



2. チョスイコート塗装仕様例

1. 仕様内容 … 鋼製飲料水タンク内面システム(無溶剤形)

2. 適用 … 鋼製飲料水タンク内面塗替え塗装 期待耐用年数 10年

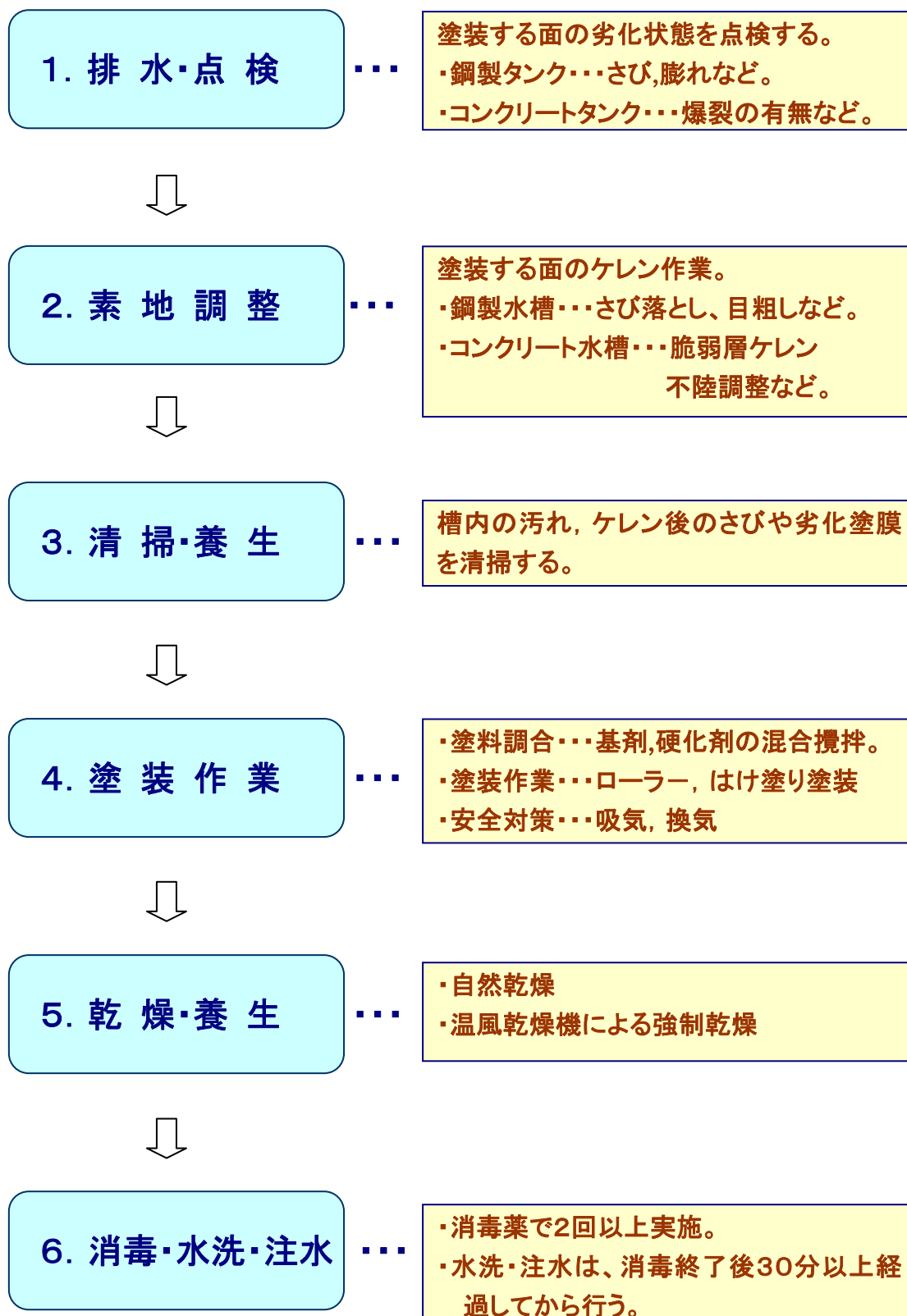
3. 仕様

工程	塗料名	膜厚 (μm)	標準 使用量 g/m^2	塗方 装法	塗装 間隔 (20°C)
1	素地調整	活膜は動力工具等で目粗し、劣化塗膜及び錆は ISO St3 に準じて除去し、清掃する。			4 時間以内
2	(補修)	チョスイコート	(200)	(500)	はけ ローラー
3	第1層	チョスイコート	200	500	はけ ローラー

4. 注意事項

- 補修塗装は、鋼材露出部に適用します。
- 使用量については、鋼材形状や素地状態に影響を受けやすく、使用量の変動することがあります。
- 低温 10°C 以下、湿度 85%RH 以上での塗装は避けてください。
- 低温時の塗装は、塗装作業性が低下します。このような場合には、ウオーターバス等で塗料を加温 ($20\sim 30^\circ\text{C}$ 程度) してご使用ください。
- 塗装器具(はけ、ローラーなど)の洗浄用シンナーは、専用シンナーをご使用ください。
- 使用の際には、カタログ及び説明書を必ずご参照願います。

3. チョスイコート塗装手順(既設貯水槽)と注意事項



※「チヨスイコート施工要領書」をご参照ください。

1. 排水・点検

貯水槽の水抜後、旧塗膜の状態や塗装対象面の劣化状態を確認します。著しい劣化が認められる場合は入念なケレン作業や修復が必要となります。

コンクリート貯水槽の爆裂
↓
セメント系材料による修復



旧塗膜の膨れ
↓
全面はく離による再塗装

鉄部のさび
↓
ケレンによるさび落とし



2. 素地調整

素地調整が塗膜の良否に大きく影響します。塗装する面は入念な素地調整が必要です。

- ・鋼製水槽 ……さびは除去してください。
- ・コンクリート水槽 ……脆弱層や突起物は除去してください。
不陸調整は「SPスーパーセメント」をご使用ください。

SPスーパーセメント#20



旧塗膜に膨れや剥がれなど素地との密着不良部が認められる場合は、除去してください。

健全な旧塗膜に塗重ねる場合は、目粗し処理が必要です。

3. 塗装作業

(1) 塗料の調合

- ・基剤と硬化剤を混合して十分攪拌してください。
- ・目分量での混合は避けてください。塗膜の乾燥や水質に悪影響を及ぼします。
(混合比は、重量比で基剤2／硬化剤1です)
- ・無溶剤形の塗料です。シンナーによる希釈は絶対に行わないでください。塗膜の乾燥や水質に悪影響を及ぼします。塗装器具(はけ, ローラーなど)の洗浄には二液形ネオゴーサーシンナーを使用してください。
- ・低温での使用はウォーターバス等(20～30℃前後)で加温して使用してください。又、槽内を温風などで暖めると効果的です。



- ・使用可能時間が短いため、塗装に必要な量のみ調合してください。

可使時間 10℃—50分

20℃—30分

30℃—20分

(2) 塗 装

- ・塗装環境条件を厳守してください。
(温度 10℃以下,湿度85%以上は避けてください。)
- ・塗装方法は、はけまたはローラー塗装が最適です。

ローラー塗装



(3) 安全対策

- ・塗装の際は、手袋などの保護具を必ず着用してください。
- ・皮膚露出部には皮膚障害予防のため、保護クリームを使用してください。
- ・塗装中は吸換気を行い、空気の流通を確保してください。

(4) 乾燥養生

チヨスイコート塗装後、注水までに必要な乾燥時間の目安は以下のとおりです。

乾燥温度	養生時間
5℃	24時間(＊)
10℃	12時間(＊)
20℃	6時間

30℃

4時間

(*) 温風による硬化の促進を推奨します。

4. 注水に関する注意事項

チヨスイコートが塗装された水槽に注水する場合は、塗装工事による雑菌の消毒が必要です。

【注水までの手順】

(1) 硬化確認・・・塗膜の硬化(乾燥状態)を確認する。



(2) 水洗い・・・水槽全体に水張りを行う。



(3) 排水・・・水抜きを行う。



(4) 消毒・・・定められた消毒法^{注)}により、消毒を行う。



(5) 注水

注) : 「貯水槽清掃従事者研修用テキスト・貯水槽清掃作業者の手引き」より引用

- ① 消毒薬は有効塩素50～100mg/L濃度の次亜塩素酸ナトリウム溶液またはこれと同等以上の消毒能力を有する塩素剤を用いること。
- ② 消毒は、貯水槽内の全壁面、床及び天井の下面について、消毒薬を高圧洗浄機等を利用して噴霧により吹き付けるか、ブラシ等を利用して行うこと。
- ③ 上記方法により、30分以上の間隔を置いて2回以上消毒を行うこと。
- ④ 消毒後の水洗い及び貯水槽内への上水の注入は、消毒終了後少なくとも30分以上経過してから行うこと。